

提言：子育て支援 — 生活のリズムづくりと家庭学習の定着化 —

(家庭・学校・地域 三位一体で 支え合い高め合う教育の構築)

公立中学校元校長 久保 哲哉

1. 北九州の子どもたちの現状 (教育の北九州方式)

「知」の側面・・・学力では全国平均と同じ程度であるが、自主学習の時間が短い子どもが多い。自ら学ぶ意欲が希薄であり、学習習慣が定着していない子どもの多いことが課題である。

「徳」の側面・・・子どもの規範意識は、学年が上がるにつれて低下の傾向にある。児童生徒の問題行動も、思いやりや規範意識の欠如に起因すると考えられる。

「体」の側面・・・生活習慣については、睡眠時間が十分でない子どもが多い。早ね早起きや規則正しい食事ができないなどの生活習慣の乱れが、授業に集中できないなど学校生活にも大きな影響を与えていると考えられる。

2. 『 早ね早おき朝ごはん 』 全国協議会

(目的) 子どもの望ましい基本的な生活習慣を育成し、生活リズムを向上させ、読書や外遊び・スポーツなど様々な活動と取り組んでもらうとともに、地域全体で家庭の教育力を支える社会的機運の醸成を図るための『早ね早おき朝ごはん』を推進することを目的とする。

(会長)	有馬	朗人	(元文部大臣)
(副会長)	陰山	英男	(立命館小学校副校長)
	遠山	啓子	(元文科相大臣)
	日野原	重明	(聖路加国際病院理事長)
	服部	幸應	(服部栄養専門学校校長) 等

(協賛団体) 企業・自治体等 多数

※ 因に、『早ね早おき朝ごはん』の原型は、陰山先生の実践であり、「本当の学力をつける本」(家庭できること)に集録されている。

3. 子ども (幼児期 児童期 思春期) の健康のしつけ (藤森 弘)

子育てで子どもに基礎的な生活習慣を身につけさせることは、極めて大切なことですが、それが非常に欠落していると実感します。

子どもが無理なく、実践することができ、親をも納得させる生活習慣法が今、求められています。

4. 具体的方策 — 子どもたちの現状を克服するために —

A. 『 早ね早おき朝ごはん 』の精神を家庭や地域に根付かせよう ＜会員の声＞

- ・ 「躰ができない」(小学校保護者)、「子どもの心が見えない」(中学校保護者)
- ・ 躰は、園児のころからの積み重ねが大切。心と体の健康づくりが一番。
- ・ 中2の親。寝る時間など全く不規則です。体によくないと知りつつも放任です。中学からでは遅いです。
- ・ 自由に伸び伸びと、だけでは健やかな成長は期待できません。
- ・ 小4男子の親。毎朝バトルです。言わないと起きないし、用意もしません。生活改善のこと、どうにかしたいのですが・・・。
- ・ 私の所は、2人ですが、家族と話し合って、9時半には寝かせています。大変助かっています。子育てが楽しくなりました。
- ・ すばらしい。家族の、特に父親の協力が必要ですね。
- ・ 「本当の学力をつける本」を参考に、よく話し合って約束させて、それが習慣になって軌道にのった、と思います。
- ・ 話し合いの資料が欲しい。子どもを納得させる資料が・・・。
- ・ 文科省の資料はむずかしい。子どもと一緒に読んでわかる資料。
- ・ 夜更かしして、朝食もとらず学校に行く。そのような生活を続けていると体も心もボロボロになります。
- ・ 『 早ね早おき朝ごはん 』といくら唱えても定着しない。
- ・ チェック項目は、子どもと話し合って、納得づくで決めましょう。
(躰は、決めつけない。押しつけない。気付かせること。)
- ・ 先生方のご協力が不可欠です。親の言うことは聞いてくれません。
- ・ ひまわりの会の結論
「 躰は、大人の一方的な指示命令ではなく、子どもの心に問いかけ、何がどう大切なのか、子どもと一緒に 学び合い 話し合っ て 一日一日の生活を家族と共に創り上げる営み 」と、定義づけました。

＜ 北九州市版 家庭教育資料(仮) の作成 ＞

① 家庭教育資料作成委員会の設置

- ・ 市内で作成されている資料を中心に、2種類程度(・話し合いのための読物風 ・方法の提示された資料) にまとめる。
- ・ 徹底した啓発を(家庭・学校・地域)

② 先導的試行

③ 希望する方々へ配布・各市民センターへの常備

- 準備** : 1. モデル事業関係資料 2. 基礎基本のチカラ (大里東小)
3. わが子の持ち味チェック表 (ひまわりの会)
4. 家庭教育手帳(文科省) 5. 母から子育て中のあなたへ

B. 家庭学習の定着化 (試案)

<会員の声>

- ・ 宿題はどうにかするが、それも言わないとしない。
- ・ プリントを買って与えても長続きしない。塾の方がよいみたい。
- ・ 参考書やプリント、結構高い。
- ・ 勉強が好きになる方法はないか。言わなくても自主的にやる方法は。
- ・ 自主学習が続かないのは、分からない所でストップする。参考書があるとするのでしょうか。
- ・ ヒントのあるプリントは、どうかな。
- ・ 学校のドリル帳は、1回かぎり。川島先生が言われるように、2、3回した方が理解でき、学力が定着する。
- ・ リピートは、大切です。脳生理学の面からも立証されています。
- ・ そんなプリントは、市販されていない。素晴らしいアイデアです。
- ・ ヒントのあるプリント、リピートのできるプリントが1年生からあると勉強するようになる！！教育は、創造ですね、先生。
- ・ それに、お母さんの声かけのあるプリント、イラストのあるプリント。1人で勉強していても、淋しくないようなプリント。
- ・ 1年生のとき、チラシの裏に計算問題を書いてさせました。“問題作って”とせがまれてきていたら、いつのまにか算数が好きになりました。会話もはずみました。

<自分でできるプリントの開発 >

- 特色** : 大人(お母さん、お父さん、先生)のイラストがあり、励ましのコトバのあるプリント(特に1年生)
- : ヒントのあるプリントが挿入されているプリント
(つまづきの要因や学年間の系統性も考慮する。)
- : リピート(繰り返し)のできるプリント

① 福岡県教委の見解

福岡県では、「生きる力」を育成するために、家庭・学校・地域が連携して、子どもたちにとって、よりよい教育活動を推進しています。

「確かな学力」定着のために、保護者の皆さんが先生方のご意見を聞きながらのプリント作成の事例は、家庭での学習習慣育成という観点から、非常に特色のある素晴らしい取り組みと考えています。

ひまわりの会の「さんすうかていようプリント 1ねんせい」は、著作権法に抵触することはありませんが、(単純な計算中心であり、基礎計算の類ですので)学年が上がるにつれて文章問題や場面設定など参考にすることは、著作権法第35条に抵触する恐れがあります。

この場合、参考とするプリントの発行者など、著作権を有する個人や団体に直接相談されることをお勧めします。許諾が得られるものと思います。

尚、著作権についての相談窓口は、下記の通りです。どうぞ、相談されてください。

〒163-1411

東京都新宿区西新宿3-20-2 TEL:03(5363)6921

社団法人 著作権情報センター

例：著作権者 北九州市教育委員会 又は 北九州市 PTA 協議会
(小学校全学年 国・算 各1冊 養護学校用を含む)

② 家庭用プリント作成委員会(仮)の設置(退職校長会協力)

③ 先導的試行

④ 希望する方々へ配布・各市民センターへの常備

⑤ 中学校 別途考える。例：私の学習法

準備 「さんすう かていようプリント 1ねんせい」「家庭学習マスズメ」(市お尋)

※ A・Bを作成し、啓発するためには、以下の条件整備が不可欠。

ア. 補助教材・プリント類の精査・選定

- ・ 一部は、学校備品へ (保護者負担軽減)

イ. 先生方の子どもと向き合う時間の確保。《 多忙 》と考える。

- ・ 保護者の啓発を含む。(家庭との連携の重視)
- ・ 時間の確保は、提出書類等の精査を中心とする。
- ・ アンケート実施 (学級担任教師を中心として)
- ・ 時間不足が自治能力指導や保護者との連携等学級経営を不十分にしている。
- ・ 優秀な教師ほど時間は不足する。
- ・ 文科省も認めている。

ウ. 『 早ね早おき朝ごはん 』 (生活のリズムづくり) の啓発

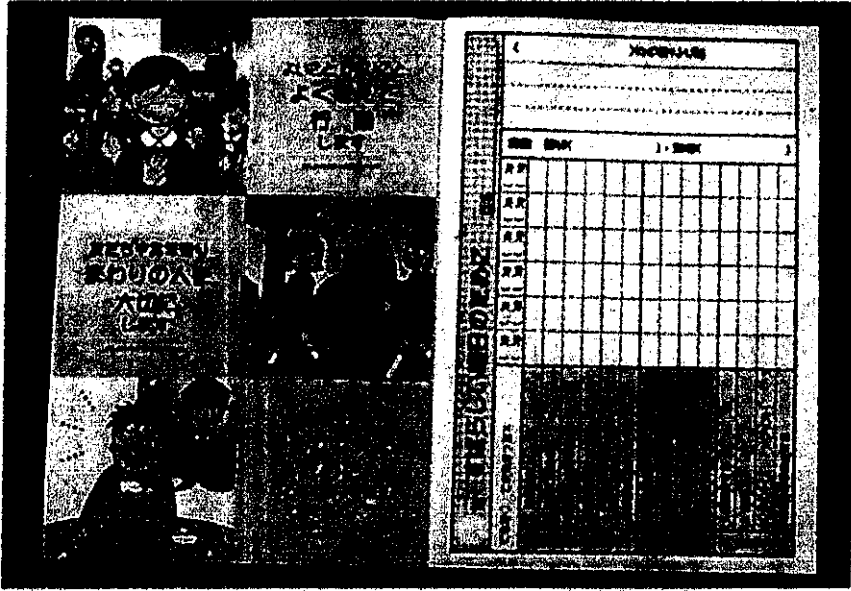
- ・ 家庭での指導
- ・ 学校 (道徳・特別活動) での指導
- ・ 各市民センターによる啓発 ⇒ 各区による啓発 ⇒ 市民運動へ
例：講演活動による啓発 (講演内容の重点化)
- ・ 市民センターの業務内容の精選・重点化 《 多忙 》と考える。

例：子育て支援に関する通信の発行

子育て支援コーナー (啓発書・プリント類)

家庭教育の問題などに
ついでに講演活動をして
いる元中学校長の久保哲
哉さん(73)＝若松区久
枝の浜2丁目＝が、子ど
もたちに基本的な生活習
慣を身につけてもらいた
いと、小冊子「わが子の
持ち味チェック表」を作
成した。

あいさつ、早起き、歯磨き、朝食



若松区 元校長の久保さん

親子で「生活習慣」学ぼう

久保さんは「朝食をとらな」「自分で起きれない」「なや、当たり前のことかできない子どもが増えていることに危機感を感じ、「しつけに悩む

宿題などの家庭学習まで十四項目に分かれている。達成できた欄には動物の顔が描かれたシールをはったり、○×を記入したりするようになっていた。また、「まず親がきちんと実行社会のルール」「子育てでは明るく楽しく感じる。」「しつけに悩む」などの悩みを解決するためのアドバイスが載っている。また、「まず親がきちんと実行社会のルール」「子育てでは明るく楽しく感じる。」「しつけに悩む」などの悩みを解決するためのアドバイスが載っている。

しつけ冊子を作成

子育てに関する標語も

親が子どもと一緒に学べる教材があれば」と作成を思い立ったという。

自信をもって「など子育てと括している。若松区の修多羅小の新入生などに配布予定。

チェック表は朝の排便や歯磨き、手伝いなど家での習慣から学校生活、

修多羅小1年生の保護者からは、大変喜ばれました。今回の資料は、使い易くするために、一層シンプルにしました。

親子で「生活習慣」学ぼう 若松区元校長の久保さん しつけ冊子を作成

【北九州】家庭教育の問題などについての講演活動をしている元中学校長の久保哲哉さん(73)＝若松区久岐の浜2丁目＝が、子どもたちに基本的な生活習慣を身につけてもらいたいと、小冊子「わが子の持ち味チェック表」を作成した。

久保さんは「朝食をとらない」「自分で起きれない」など、当たり前ができない子どもが増えていることに危機感を感じ、「しつけに悩む親が子どもと一緒に学べる教材があれば」と作成を思い立ったという。

チェック表は朝の排便や歯磨き、手伝いなど家での習慣から学校生活、宿題などの家庭学習まで十四項目に分かれている。達成できた欄には動物の顔が描かれたシールをはったり、○×を記入したりするようになっている。

また、「まず親がきちんと実行社会のルール」「子育ては明るく楽しく自信をもって」など子育てに関する標語や、「家族にも言います『ありがとう』と『ごめんなさい』」など、といった子ども向けの標語もイラスト付きで紹介している。

久保さんは「学校に行く前の朝の時間は、子どもがその日一日、元気で勉強したり遊んだりするための大事な時間。この教材を使い、早起き、朝の排せつ、歯磨きなど基本的な習慣をしっかり身につけてほしいですね」と話している。

若松区の修多羅小の新入学生などに配布予定。問い合わせは久保さん＝093(771)3125。

(西日本新聞) - 3月4日2時38分更新

いま最も読まれているニュースをチェック

前後の記事 - [福岡]

- 映画:ナショナル・トレジャー 一足早く“宝”を公開 - 九博で招待試写会 / 福岡(毎日新聞) - 4日(金)17時35分
- 大事故やテロを想定 ICタグで負傷者識別 福岡市25日に全国初の実験(西日本新聞) - 4日(金)2時38分
- 親子で「生活習慣」学ぼう 若松区元校長の久保さん しつけ冊子を作成(西日本新聞)
- 引退後に高校生活満喫 今春、嘉穂定時制を卒業 63歳、和田さん(西日本新聞) - 4日(金)2時38分



- 10秒審査! 限度額300万円
- 金利は完全日割制で安心!
- 当日カード受け取り可能

トピックス

家族5人殺害 事務長から聴取

三宅村の3中学が合同卒業式

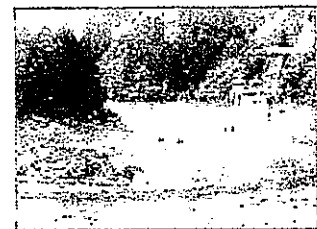
JFE東日本製鉄所を家宅捜索

愛知万博 野鳥の会が参加撤回

飯坂温泉 1泊2005円で宿泊 初代「金シャチ」茶釜で再生 3歳の長男を浴槽に沈め殺害

一覧

写真ニュース



(拡大写真)

濁水対策で堆積土砂除去 - 猿谷ダム湖(Nara Shimbun)

一覧

西日本新聞社が全国へ発信したので、東京・大阪・熊本・県下の研究者、行政担当者、保護者、教師、17名の方々から電話を頂いた。

生活リズムづくりの方法が明示されており、シンプルなのがよい、との文言。資料送付の依頼がその大半でした。

修多羅 ひまわりの会

- 子育ては 明るく 楽しく 自信をもって
- 子育てを 一人で悩むお母さんのいないまち

2004年(平成16年)5月18日(火曜日)

(第3種郵便物認可)

毎日新聞

ふくおか

福岡

母親らが手作り算数プリント

「ひまわりの会」 北九州市内 小学校の保護者

「子供が家で全然勉強をしない」「こつこつと黙っていろいろ言っても反発されるだけ」と。こんな悩みを持つ北九州市若松区の小学生の保護者グループが、1年生用の算数のプリントや生活チェック表を手作りにした。母らは、家庭での学習・生活習慣をきちんと身に付けてもらうこと。一緒に考えたり取り組むことで「親子の信頼が増え、勉強への意欲もわいた」などの効果が出ていると話す。

【古川修司】

「手書きのプリント」
「さんすう かけていよ
うプリント ねんせい
い」。こう表紙に書かれた教材は、全部で70ページの力作。JR若松駅に近い市立修多羅小学校の保護者約15人でつくる「ひまわりの会」が半年掛かりで完成させた。

「相談」
「相方は、地元であった
子育講座の参加者が中心
となって結成。3月までの代
表だった松尾弥寿代さん(66)が「こつこつと
も言いつつ仲間がなにか
計算が苦手だが大丈夫
かな」と、お互いに打ち明
けるようになった」と話
す。

「同じ仲間を集めて色を塗りまじょう」から数字の書き方、足し算・引き算、図形など、教科学習に沿った内容。同小の山本敏明校長が助言したが、一番の特徴はすべて母親たちの手書きであることだ。

「勉強勉強と言ったんが、このお母さんたちは、原宿の文字も図も鉛筆書きで、親しむ姿勢が、紙の片隅に『や』と笑顔を見せたのが「自分で問題を作っ

て渡したら、おもしろがって次もとせがまれた」というあるメンバーの話だった。

せる。

「触れ合い」

学力向上だけが目的な市販教材があるが、プリントの狙いはまず低学年のうちから家で学習する意識を持ってもらうこと。押し付けるのではなく、山本校長は「この10年の間に、家で勉強をする子でそうでない子の差が大きくなる。担任せと、試験的に一部を会員の10人の家庭で使ったところ、子供たちは「楽しんでる。出来たら寝る」

家庭生活のチェック表も

出来たら寝る

活動は学習面だけでなく、親子がきちんと向き合い、子供が親を尊敬するきっかけにもなるのである」と期待する。

生活面も

「二人で起きる」「朝の大便」「歯を磨く」などの生活面や「やんせうを守る」などの社会性、学校での集団生活、そして「読書をする」「国語を学ぶ」……

学習に限らず、家できちんとした生活習慣を身に付けてもらうため、親子で話し合い、出来る項目から「約束」。



小学1年向けの算数プリントを手作りした「ひまわりの会」のメンバー

教育 品 ふくおか

開校90年近い伝統がある同小だが、児童の多くは新興住宅街に住み、親同士の付き合いも希薄。松尾さんは「親たちが集まらなければ続かない。就学後は子供の学習が大きな関心事だが、なかなか人に相談できない。仲間の輪を広げ、子育てについて何でも話し合える場を作りたい」と話した。